

## 呑川レポート 2014-13

### ボラの大量遡上-1(どこまで遡上したか)

今年の「呑川」は、新年から大きな異変が起きていました。

「ボラの大量遡上」が、1月から3月半ばまで長期間続いたのです。

あいにく、私の彼女が思わぬ病に襲われ、苦しい時期と重なり、十分な観察が出来ないまま推移し、「呑川レポート」の形としてまとまらないため、そのままになっていました。

しかし、振り返って、この「ボラの大量遡上」は、「呑川」にとって近年まれに見る「歴史的」とも言える大きな事件であり、そこで現れた様々な事象は、示唆に富んだ内容に満ちていました。

そこで、忘れないうちに、きちんと記録に残しておこうと思い立ち、不十分な観察であっても、少しいねいにレポートすることにしました。

----- ボラの大量遡上 (その1: どこまで遡上したか-1) -----

今年の2月の「呑川の会・定例会」で、会員の菱沼さんが、「今年は元旦からボラの遡上がすごかった」と報告してくれました。蒲田地域での観察ですが、「かつて見たことが無いほど、たくさんの遡上だった」そうです。こうして、1月1日から、「ボラの大量遡上」が始まったのです。

#### (1-1) 「仲之橋」段差

私が「ボラの大量遡上」に気が付いたのは、1月後半の1/21でした。



ここは「仲之橋」(久が原)の上流側ですが、川の色がとても濃く、しかも泡立ちが顕著で、「どうしたのだろう? なにか特別のことが発生したのだろうか?」と、気になりました。



「仲之橋」の上流側にある、「小さな段差」を流れ落ちる水は、大きく泡立ち、その白い泡は「仲之橋」からさらに、下流の「根方橋」まで続いていたのです。そこで、この黒っぽい水の中が見えないかと、太陽の光の反射を避ける位置にあれやこれやと動き、のぞいて見ました。



すると、そこでようやく見えたのは、白い泡のすき間に、たくさんのボラが集まっている姿でした。これが、水面を黒くしていた原因でしょうか・・・



「仲之橋」の下流側をのぞきました。たくさんの泡と水面反射で、ちょっと見えにくいのですが、川幅いっぱいにはボラが集まっています。こんなに大量のボラが、この地域に見られたのは久しぶりです。



拡大して見ると、ボラたちが重なり合うようにぎっちり集まっているのです。



これは、同じ場所の5年前、2009年の「ボラの大量遡上」です。まだ、「呑川」は「未改修区間」が残っていて、護岸は「矢板鋼板」、河床は「自然河床」が残る貴重な場所でした。

この頃は、毎年のように「ボラの大量遡上」があったので、あまり気にしなかったのですが、河川改修後は、多少の遡上はあったにせよ、顕著な遡上が見られなくなっていました。

改修により「3面コンクリート護岸」の河川になると言うことは、こういうことかと改めてショックで、悲しい想いを抱いていました。

ところが、5年を経過して、今、また「ボラの大量遡上」が観察されたのです。

これを目の前にして、胸がドキドキと騒がずにはられませんでした。

そして、前々から頭の中に封じ込められていた、課題や問題点が次々に浮かび上がり、この機会にそれらを解き明かす観察を続けようと思いついたのです。



河川改修（耐震補強工事）が行われる前、この少し上流側、「道々橋」近くに「大きな段差」がありました。下水道の大きな幹線「洗足池幹線」が、ここで「呑川」の下を通り抜ける場所で、「大きな段差」になっていたのです。

これが「ボラ」にとっては大きな障害になっていたようで、ボラの遡上は「仲之橋」の一つ上流側「八幡橋」付近までしか見られなかったのです。

ただ、この「大きな段差」があった時も、これを乗り越えて魚（スミウキゴリ）が遡上していることは、大田区の生き物調査でも確認しており、卒論で呑川を取り上げてくださった赤木さんの調査でも、さらに上流の「JR鉄橋（新幹線）」の真下に「スミウキゴリ」が多く発見されています。しかし「ボラ」は、ここまではやって来なかったのです。



「道々橋」近くの「大きな段差」は、改修工事で撤去され、現在はこの写真に見える「仲之橋」近くの「小さな段差」だけになりました。

この「小さな段差」なら、「ボラ」は乗り越えて遡上出来るでしょうか・・・

しかし、この日はこの「小さな段差」を超えて遡上するボラは見られず、この上流側を探しても、ボラはまった

く発見出来ませんでした。やはり無理なのでしょうか・・・？

## (1-2) ボラの遡上の新段階へ

「仲之橋」付近の「小さな段差」下に、大量のボラが集まっているのを見た翌日、やはりボラはあの「段差」を乗り越えられないのかと、そればかりが気になって、再び観察に出掛けました。



ここは、「仲之橋」の上流、「道々橋」をさらに遡った「本村橋」です。

水が流れ込む護岸の四角い穴は、「洗足流れ」の合流口です。「呑川」の支流は、そのほとんどがフタ掛けされ、無くなりましたが、こうして「洗足流れ」だけが、現在も生きている貴重な「支流」なのです。

冬（1月）の陽は弱々しく、その高度は低くて大きな影を作り、見にくいのですが、「本村橋」直下の「深み」は魅力的な場所ですので、いつも気にして観察する場所です。



すると、「洗足流れ」の流入滝を避けるように、たくさんのボラが遡上して来るのを発見出来ました。みごと、「仲之橋」付近の「段差」を乗り越えて、ここまでやって来たのです！



そして、「本村橋」直下の「深み」に、吸い込まれるように集まっているのです。

一般に「橋脚」は、橋の重みを支え、トラックなどの重量車両を支えるため強い強度で作られています。

そのため、「橋部分の河床」は、それ以外の河床部と違って、「コンクリート河床」にしなくても大丈夫な強度があるのです。

河川改修に当たって、私たちは「深み」の重要性を強調し、「深み」をなるべく多く作っていただくようお願いして来ました。その配慮の一つがこの場所で、「自然河床」と「深み」が残っている貴重な場所です。

そして、この場所を利用して、ボラたちは集まってきているのです。こういう具体的な効果が現れたことは、都の「二建」の設計者の方もうれしいでしょうが、私たちにとっても狙い通りで、とてもうれしいことです。

この日は、この「深み」を出て、さらに上流へ遡上する姿は見られませんでした。しかしこの日は、ボラが「仲之橋」付近の「段差」を乗り越え、初めて「道々橋」を越える領域へ遡上した歴史的な日(1/22)となりました。こうして「ボラの遡上」は、呑川にとって「新段階」を迎えたのです。

### (1-3) 勇気をふるって上流へ

「仲之橋」付近の「段差」が、ボラにとって障害で無い状況を見ると、いやがおうでも、ボラが上流のどこまで遡上するかを見極めたくくなります。



ここは、「JR 新幹線」(久が原と雪が谷の境にあります)のすぐ下流側にある「芹が谷橋」です。  
(「本村橋」のさらに上流側です。)

冬の寒い時期は、日陰が多いただけで無く、厚手のコートを着たり、手袋をはめたりでカメラを操作しにくく、どうも苦手です。  
しかも東京特有の「空っ風」が、大なり小なり吹きまわります。

でも「呑川」では、ここが橋の直下に「深み」がある最後の場所で、この上流側にはもうこういう場所がありません。  
前日、「本村橋」(洗足流れ流入口)までだったボラが、ここまで遡上して来るかが、どうしても気になるところです。



すると、大集団ではありませんが、続々とボラが「芹が谷橋」までやって来たのです。



ボラたちは、この「芹が谷橋」直下の「深み」にやって来ると、のんびり休みたいのでしょうか、「深み」の「上流端」まで来ると、くるりと向きを変え、周遊するように「深み」の中を泳ぎ回ります。

しばらく観察をしていましたが、前日の「本村橋」で見たと同じように、この「深み」から出て上流側に向かう様子はありませんでした。

ところが、北風も強まったので、そろそろ帰ろうとした時です・・・



なにやら数匹が、この「深み」から抜け出ようとする気配です。でも、流れが速いせいでしょうか、流れに逆らって泳ぐのが精一杯のようで、この状況のまま、この位置から動いて行きません。





どうなるかとドキドキしながら見ていると、突然、一気に遡上し始めたのです。

初めの数匹に続いて、我も我もと、上流へ向かう集団が現れたのです。

魚は、キバやツノなどの武器を持ちません。

コサギやカワウに襲われたら、ひたすら逃げるだけです。

唯一の武器は、集団になって移動し、とても大きな姿のように見せて、近づきにくくするだけです。

ですから、誰かが勇気をふるって遡上すれば、一緒になって集団行動するのです。

この時は、1時間程度見る限りは、これ以上この「深み」から出て遡上する姿は見られませんでした。

でも、そんなに多くは無いにせよ、こうして「深み」で休んでから、遡上していくボラはかなりあったのだと思います。

やはり橋の下の「深み」は、大きな力を発揮していたのです。

こうして、ボラは「JR 新幹線」を越え、「久が原」「仲池上」地域から「雪が谷」地域へと踏み込んでいったのです。

しかし、この先には大きな困難が待ち構えていました・・・

少し長くなりましたので、次回に続きます。

---

(当面の日程)

2014/8月いっぱいまで 「西蒲田地域悪臭ヒヤリング行動」

- 2014/7/24 (木) 「呑川の会・定例会」 9:30 洗足池図書館・多目的室  
2014/7/24 (木) 雪小「わくわくスクール」 13:15 雪小  
2014/7/29 (火) 「東京都の川を考えるシンポジウム」 13:30 都民ホール  
2014/8/1 (金) 洗足池図書館「呑川講座」大田区報掲載・募集開始  
2014/8/9 (土) 「呑川の会・定例会」 13:30 蒲田小学校  
2014/8/20 (水) 「呑川ネット・定例会」 10:00 生活センター・講座室  
2014/9/13 (土) 洗足池図書館「呑川講座」第1回スタート(連続5回講座)

-----  
----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) [mitsuo.takahashi@nifty.com](mailto:mitsuo.takahashi@nifty.com)